13

読む
確認

文意を正しくとらえる
（文法）

名前

解答

★文章を読むときや書くときには、まず主語と述語を意識する必要があります。主語・述語の関係が文の骨組みであり、相手に一番伝えたいことです。書き手の伝えたい情報に合わせて修飾語などの言葉を付け加えて文が成り立っていることを知っておきましょう。

やってみよう〔解答と解説〕

一

1 〔 三 文節 〕

修飾語	主語	述語
きらきらと	星が	輝く。

2 〔 四 文節 〕

独立語	主語	修飾語	述語
友達、	それは	私の	宝だ。

二

1 ア（接続語）…「すると」は、前の文と次に来る文をつなぐ働きをしています。

イ（修飾語）…「大きな」は、次に来る「星が」という文節につながり、どんな星なのかくわしく説明する働きをしています。

ウ（独立語）…「ああ」は、感動を表し、他の文節とかかわりをもたずに独立しています。

2 ①（こぼれた）
②（見た）

修飾する言葉を「係る」言葉、修飾される言葉を「受ける」言葉と表現することがあります。

3 **星や月**

…並列の関係にある二つ（もしくは二つ以上）の文節の中には、順序を入れかえても文の意味が変わらないものがあります。この問題の文例では、左のように、文の意味が変わりません。

・星や　月を　ゆっくり　ながめた。
・月や　星を　ゆっくり　ながめた。

4 **補助の関係**

…この問題の文例の「いる」という文節は、本来の意味がうすれ、上の文節「見る」に軽い意味をそえる働きをしています。

「飛んで／いく」「書いて／みる」「泣いて／いる」などは補助の関係にあります。この中の「いく」「みる」「いる」などの文節は、本来の「行く」「見る」「居る」という意味がうすれ、上の文節に軽く意味をそえる働きをしています。このような文節どうしの関係を補助の関係といいます。